

1 登別市

1 地域の概要

指定地域	登別市
拠点校	登別小学校
連携校等	令和元年度：幌別小学校・幌別東小学校・白雪幼稚園・登別保育所 令和2年度：鷺別小学校・若草小学校・リリー文化幼稚園・鷺別保育所
組織体制等	登別市幼保小中連携協議会 (市内幼児教育施設長、市立小中校長会代表、市保健福祉部、市教育委員会)

2 事業スタート時の現状と課題

- 試行的な取組を経て、平成25年度に、市幼保小中連携協議会を組織し、それ以降、円滑な学校間接続を目指し、学校間の授業参観、子どもや指導者同士の交流等の取組を継続し、本協議会の意義の浸透を図ってきた。毎年、市内全施設の関係者による実務者会議や合同研修を実施するとともに、年複数回の授業参観等を小学校や幼児教育施設に働き掛けているものの、勤務実態の違い等により、それぞれの取組に温度差がある。
- 各小学校の年間予定に幼児教育施設との交流等の日時を予め設定し、着実に実施してきたが、小学校区等の単位での主体的、創造的な取組までには至っていない。
- 小学校区での小学校と幼児教育施設との連携や接続に係る取組を促しているが、小学校と幼児教育施設の距離が離れている場合は、交流の機会を設定することが難しい。
- 平成24年度の試行を経て、市内全幼児教育施設及び室蘭市等近隣の幼児教育施設と市内小学校の教諭等が一堂に会し、年度末の3月に合同引継ぎ会を実施してきた。日常の交流を基に、指導要録等を用いて教諭等が対面して幼児や教育課程等について引き継ぐ有意義な機会となっているが、配慮が必要な幼児や家庭、入学後も経過観察の必要なケースがあり、本協議会だけでは十分共有しきれない。また、小学校入学後における小学校と幼児教育施設との情報交換の機会が十分確保されていない。
- スタートカリキュラムは、各小学校の従前の取組を基盤とし、幼児教育施設の意見を踏まえたものとなっていなかったことから、本協議会としてスタートカリキュラムの作成、整備、改善に取り組む必要があった。

3 年間スケジュール

- 4月～ 相互参観・交流・子どもの交流活動(1)**
(卒園児担任・小1担任)
☆幼保教員・保育士の小学校参観、懇談、情報交流(入学当初)
☆各校の年間予定・指導計画に基づく交流等～参観時は所属職員からのガイドも
☆児童の交流後に即評価、即年間指導計画に朱書き～スタートカリキュラムへも反映
- 8月初め 連携協議会Ⅰ**(協議会委員)
☆成果や課題の確認・情報交流等
☆保育所参観や各地区等での合同職員研修の企画・実施(夏季休業中)
- 8月末～ 相互参観・交流・研修・子どもの交流活動(2)**
☆「10の姿」をより意識して ※就学时健康診断・簡易検査の機会も活用
- 10(11)月 連携協議会Ⅱ**(実務者合同研修)
(教務主任・担任等)
☆グループワーク・演習による実務者の理解深化と取組の質的向上
☆スタートカリキュラムの検証・情報交流
- 1月末～ 相互参観・交流・研修・子どもの交流活動(3)**
☆小学校教員による年長児の卒園所直前の姿の参観・育ちの共有
☆小学校体験入学・保護者説明会の企画・運営～可能なら幼保の参画も
- 3月末 合同引継ぎ会**(教務主任・新担任・特別支援教育コーディネーター・養護教諭等)
☆特別な配慮を要する・家庭環境等に配慮を要する幼児等の具体を対面で(入学後も適時引継ぎ補充)

4 事業終了後の体制づくり

- ・関係者の意識の高まりやこれまでの取組の成果を踏まえ、引き続き市教委の指導の下、市幼保小中連携協議会を中心に推進する。また、各小学校の教務主任の他に連携担当教員を位置付け、幼児教育施設の園長、所長と教務主任等の実務者を構成員に、スタートカリキュラムを介した円滑な学校間接続を図る。
- ・現在の推進リーダーをアドバイザーに位置付け、本協議会の企画運営に参画し、市内全体の取組の充実が図られるようにする。(複数回開催予定)
- ・市教委と幼児教育施設を所管する市保健福祉部こども育成グループとの連携・協働を強化する。

※登別小学校HP：幼保小連携・接続通信 http://www.noboribetsu.ed.jp/~nb_info/photo-news.html

① 幼児・児童の交流～登別市～

取組1【生活科を通じた交流】

生活科「あきともだちになろう～ようこそたからものランドへ～」

生活科において、身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりして、遊びや遊びに使うものを工夫して作る活動が位置付けられている。さらに、それらを発信する活動として交流が設定されることが多い。

第1学年児童が、どんぐりやまつぼっくり、木の葉などを使って、みんなで楽しむことのできるゲームや制作コーナーを考え、幼稚園や保育所の年長児を招待した。



【生活科 交流活動】

取組2【行事での交流】

(1) 学芸会 児童公開への参観

毎年、学芸会児童公開日に年長児が訪れ、第1学年の発表を参観している。

(2) ハロウィン交流

幼児教育施設の行事「ハロウィン」で、衣装した幼児が小学校を訪れ、一緒に「じゃんけん列車」等のゲームを楽しんだ。

(3) 一日入学での交流

一日入学に合わせて、第1学年児童と年長児との交流学習を設定している。生活科の身の回りのものを活用して遊べるものを作る活動を行い、第1学年児童と年長児がペアとなり、第1学年児童が作り方を教えるなど、関わりが深くなるように工夫した。



【遠足の途中で「通りすがり交流」】

取組3【その他の交流】

(1) 第1学年以外との交流として、第2学年生活科「つくってためして～みんなのアイデア大しゅう合～」を行っている。

(2) 遠足や校外学習時に出かけている児童が、幼児教育施設にいる幼児と「通りすがり交流」を行っている。

- ・ 難しく、無理のあることは続かないことから、学校や地域の実情、児童の実態に合わせて「できること」を「できる形」で取り組む。
- ・ 交流活動の質を高めるために、幼児に小学校への憧れや期待をもたせたり、児童に教える経験と自分自身の成長を感じたりすることができるよう活動を計画する。
- ・ 小学校と幼児教育施設の互いのねらいを踏まえて、活動内容や指導・支援の方向性を明確にする。
- ・ できる限り事前の打合せをもつようにする。
- ・ 交流の主体が小学校、幼児教育施設のどちらなのかによって全体進行役を決めたり、負担軽減のために互いに役割分担しながら運営に携わるようにしたりする。



【成果】

- ・ 年長児を招待して行った活動では、第1学年児童は「楽しんでもらおう」、「喜んでもらおう」という思いをもって取り組む姿が見られた。
- ・ 児童が制作物や取組のよさ、成長した姿を幼児教育施設の教諭等から評価され、自分自身の成長を感じることができた。
- ・ 年長児の取組を小学校の教諭や児童に評価してもらえたことにより、年長児の小学校での学校生活への期待感を高めることができた。

【今後の見通し】

- ・ 状況に合わせて交流の形態を変えるなど、様々な方法を模索しながら、交流を継続する。
- ・ 小学校や幼児教育施設の実態に合わせ、主体的に継続できるように交流活動を進める。



②保育者・教職員の交流～登別市～

取組1【校内ミニ研修】

近隣幼児教育施設の園長、所長を講師として招き、「円滑な学校間接続に向けて」をテーマにミニ研修を行った。

《主な内容》

- ・乳幼児期の学びや育ちと幼児期の教育活動
- ・近年の子どもの育ちの変化
- ・園の教育活動

取組2【幼小連携・接続に係る校内研修】

幼小連携・接続推進リーダーが講師となり、幼小連携・接続についての校内研修を行った。

《主な内容》

- ・幼小連携・接続の意義
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」と幼児期の学びと育ちの姿の理解
- ・スタートカリキュラムの4つのポイント
- ・今後の取組

取組3【幼小の教諭等が参加した校内授業研究、研究協議】

幼児教育施設の教諭等が、小学校の校内研究授業とその後の研究協議に参加した。

《主な内容》

- ・第1学年国語科「これはなんでしょう」
- ・研究協議テーマ「対話に向けた見通しの工夫」
- ・近隣の幼児教育施設2園から4名の教諭等が授業参観、研究協議に参加

取組4【幼児教育施設の園内研修へ参加】

幼児教育施設の園内研修に、近隣小学校2校から保育参観と園内研修に各1名が参加した。保育参観と園内研修が複数回設定されており、参加可能な日時を選んで参加することができた。

《主な内容》

- ・年長児の保育内容「交流会プレゼント作り」を参観



【校内ミニ研修】



【研究協議】



【保育参観】

取組の ポイント

- ・小学校と幼児教育施設の教育、保育を知ることから始め、簡単な内容で、短時間の設定とする。
- ・校内ミニ研修は、質疑応答を含めて30分程度とし、互いに負担の少ない時間設定とする。
- ・相互参観や交流等が気軽に行うことができるよう、登別市幼保小中連携協議会において、依頼文等を省略することを確認する。
- ・授業参観、保育参観をできる機会を複数回設定したり、授業参観、保育参観だけ、研究協議だけの参加を可能にしたりする。

【成果】

- ・ミニ研修では、幼稚園教育の基本や指導の実際が分かり、小学校での指導を考える機会になった。
- ・相互参観、研修への参加を通して、幼児児童の育ちや学びについて共通理解を図ることができた。
- ・校内授業研究、研究協議を通して、小学校でどのような力を身に付けているのか、幼児教育施設の教諭等の理解が深まった。

【今後の見通し】

- ・今後も、小学校区それぞれの実態に合わせて、主体的に継続して交流を進められるようにする。
- ・依頼文等の省略や参加しやすい日時、回数を設定をするなどの工夫をする。

③効果的な引継ぎ～登別市～

取組1【登別市幼保小中連携協議会 合同引継ぎ会】

年度末に、市内全小学校と幼児教育施設が一堂に会して指導要録（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿））を基にして引継ぎを行っている
※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、中止。各校で可能な形での引継ぎを行った。

取組2【参観日を活用した保育参観】

小学校の教諭が、幼児教育施設の参観日を利用して日常の保育の様子を参観した。

取組3【幼児教育施設訪問による引継ぎ】

複数の幼児教育施設に関わる小学校が独自に、幼児教育施設に訪問して保育参観と学級担任からの引継ぎを行っている。（令和元年度は、学級担任からの引継ぎのみとした。）

取組4【その他】

設定保育の時間の参観と併せて、小学校の教諭が登園後の身辺整理の時間や昼食準備の時間等の参観をした。幼児の身辺自立の状況や幼児同士の関わりが見え、幼児の実態を把握することにつながった。

「主に5歳児の観察のポイント～幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を基にして～」を基にした観察の視点である「主に5歳児の観察のポイント」を小学校の教員に示し、幼児の育ちを確認したり、課題の見られる点について学校や学級担任が配慮したりするなど、指導に生かすよう促した。



【昼食準備の参観】

主に5歳児の観察のポイント ～「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を基にして～	
	観察のポイント（ ）内は具体的な姿の例
1 心と体	<p>「10の姿」</p> <p>幼児園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p> <p>目標をもって意図的に体を動かす ・適量に応じて体の動きを調整できる(力加減) ・基本的な生活習慣が身につく(挨拶、食事、排泄) ・体を大気にする行動を避けて行う(外遊びの際は、手を洗う) ・危険なことを理解して安全な行動がとれる ・片付けや準備など見通しを持って行動する(遠足の出発前にトイレに行く)</p>
2 身辺自立	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずやり進めることによる達成感や味、自信をもって行動するようになる。</p> <p>やるべきことを自発的に行う(使ったおもちゃを元の場所に片づける) ・自分でやりたいことを見つけて取り組む ・目標に向かって頑張ろうとする(縄跳びを2回回りたいと頑張る) ・自分で考え工夫する ・先生や友達の手を借りてやり進めようとする ・最後までやり進めて自信をもつ</p>
3 友達関係	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり進めるようになる。</p> <p>友達と積極的に関わる ・友達の意見をよく聞く(「私はままごとがしたいけど、○○ちゃんは何したい?」と質問する) ・気持ちを共有できるように伝える(「ままごとを昨日したから、今日は外であそびたいな」) ・友達に譲ったり我慢したりできる ・友達と相談したり話し合ったりする ・同じ目的のために友達と協力する</p>

【主に5歳児の観察のポイント】

年間を通じて、複数回の新入学児童と次年度入学児童の引継ぎを実施

- 1回目：年度末（3月または2月） 登別市幼保小中連携協議会 合同引継ぎ会
幼稚園要録、保育要録（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）を基にした引継ぎ
- 2回目：1学期の早い時期（年度当初の参観日等の活用）
小学校での児童の様子把握（授業参観）
児童への対応の具体等（学級担任間懇談）
- 3回目：随時
長期休業中や午前中の設定保育における年長児童の実態把握（保育参観）

授業後の懇談
が大事です！

取組の
ポイント

【成果】

- ・令和元年度合同引継ぎ会は中止になったが、各小学校で可能な形での引継ぎを行うことができた。
- ・年間を通じた段階的な引継ぎや「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を基にした参観を推進し、積極的に相互参観する小学校や幼児教育施設が増えた。

【今後の見通し】

- ・小学校の学級担任の保育参観が可能になるよう、長期休業を利用したり、補欠体制を充実させたりするなどの手立てを行う。
- ・小学校が年長児の実態を把握するために、登園後の時間や昼食準備時間などの短い時間での効果的な参観を促す。

④スタートカリキュラムの充実～登別市～

取組1【スタートカリキュラムの協働作成】

登別市幼保小中連携協議会の実務担当者会議において、実際に接続期の幼児児童に関わる教諭等が集まり、日常の幼児児童や教育活動に係る情報交換と併せて、スタートカリキュラムの協働作成のグループワークを行った。

《内容》

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
- ・スタートカリキュラム 幼保小による協働作成（グループワーク）
- ・スタートカリキュラムの作成・活用

小学校の教諭と幼児教育施設の教諭等が意見を出し合いながら、入学当初の生活科の一単元を検討した。

このグループワークと市教育委員会から出されたスタートカリキュラム作成・運用指針を踏まえて、市内全小学校においてスタートカリキュラムを作成した。

取組2【スタートカリキュラム チェックシートの作成・活用】

スタートカリキュラムの評価、改善策を考える手立てとして、「スタートカリキュラムで期待する児童の姿」に即して評価項目を設定し、小学校での活用を促した。

取組3【スタートカリキュラムに関する情報発信】

「幼小連携・接続通信」を作成し、スタートカリキュラムに関する内容や実践例などを市内全小・中学校に発信した。

《内容》

- ・スタートカリキュラムの作成に向けて
- ・スタートカリキュラム実施の留意点について
- ・スタートカリキュラムの週案作成のポイント
- ・主体的な学びを育む環境設営アイデア
- ・各校の取組（実践例）
- ・スタートカリキュラムの評価について 等



【スタートカリキュラム協働作成】



【幼小連携・接続通信】

- ・登別市幼保小中連携協議会と連携した取組を進めることで、実際に幼小の接続期の幼児児童の指導に携わる教諭等が集まり、協働作成の演習を実施する。
- ・幼児教育施設の教諭等に遊びの場面の写真を紹介し、その中に見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を考えることを通して、小学校の教諭に深く理解してもらう。
- ・「幼小連携・接続通信」で、スタートカリキュラムの作成に向けた学校体制構築からカリキュラム・マネジメントまで、時期に合わせて話題を提供し、小学校の教諭の理解を深める。



【成果】

- ・演習を通して、スタートカリキュラム作成の意義はもとより、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」や保育参観等で幼児児童の実態を把握することの大切さを教諭等に実感させることができた。
- ・市教育委員会の「スタートカリキュラム作成・運用指針」を踏まえて、市内全小学校でスタートカリキュラムを作成し、実施することができた。

【今後の見通し】

- ・今年度の実践から、スタートカリキュラムに係る評価項目や「めざす児童の姿」を視点にして、成果と改善点を検討する。
- ・次年度に向けてカリキュラムの改善や環境整備を行う。
- ・今年度の実践をデータベース化し、次年度の実践につなげる。